―編集後記―

はじめに、元日に発生した能登半島地震により、犠牲になられた方々のご冥福と被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。奈良県災害拠点病院である当院からも1月4日からDMATとして医師を含む５名が石川県立中央病院に派遣され、1月13日からは４名が第二陣として本原稿を執筆中の今まさに避難現場で活動中です。また残された職員も一致協力して当院の診療業務が通常通り行えるよう努めております。

さて、令和５年の大和高田市立病院は、奈良県立医科大学からの医師派遣による診療体制の強化により専門的な治療や外科系手術が増加しました。あらゆる世代の市民の皆様から要望の強い救急医療においては、年間の救急車応需件数が2847件と過去最高となりました。将来的には年間3000件を目標に令和６年も救急医療に尽力します。また、少子化により分娩件数は減少していますが、今後も小児医療および周産期医療を継続、充実させ、地域の公立病院として子育て世代を支援します。当院はこれからも「紹介と救急」を断らない急性期病院としての使命を果たし続けます。地域の先生方には、入院や専門的な検査及び治療が必要な際には、紹介状を持参しての当院受診を推奨いただきますようご協力をお願いします。症状が安定したら、当院からの紹介状を持参して地域の先生方にお返しします。紹介及び逆紹介を促進し、今後一層地域の先生方との連携を深めることで、迅速かつ効率的な地域医療を実行して参ります。

当院の季刊誌であります「市立病院NEWS」は、これまで年１回発刊しておりましたが、先生方に当院の情報をよりタイムリーにお伝えしたく、令和６年からは年２回発刊することとしました。新任医師の紹介や各診療科・部署におけるさまざまな取り組み、新たな治療法や医療機器の導入のお知らせなど多岐にわたる病院情報を発信いたします。お気づきの点、改善点等ございましたら、地域医療連携センターまでご連絡ください。

地域医療連携センター長　向川 智英

大和高田市立病院ニュース編集委員
（地域医療連携センター）

センター長			向川　智英
看護師長			辻本　利恵
看護師	長谷川 真樹	社会福祉士	前 真里子
	中野 八枝子		山本 真由
	米本　幸恵		石村　一路
			中村 恵璃華
			山本　沙季
事　務	山口　景子		
	奥原 麻沙子		

令和6年（2024年）3月発行

Topics ―

院長のご挨拶 ……1
新任医師のご紹介 ……2
70周年記念の報告 ……3～4
（大和高田市立病院開院70周年記念式典）
コロナ後の活動再開 ……5～6
（まほろばPEACE緩和ケア研修会、がん患者サロンひだまり）
疼痛管理チームのご紹介 ……7
内視鏡検査・心臓カテーテル検査について ……8
地域医療連携センターからのお知らせ ……9～10
編集後記

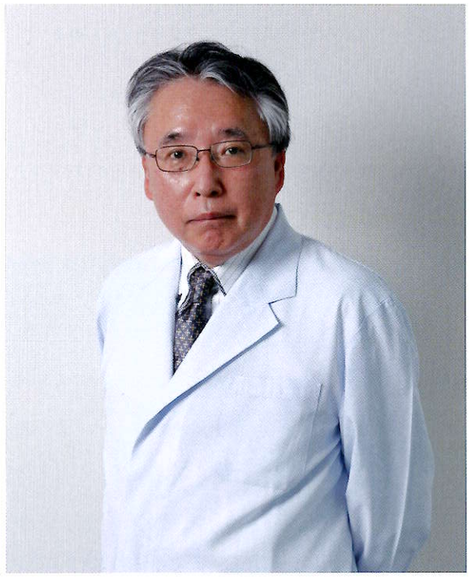
大和高田市立病院NEWS
No.27

奈良県大和高田市立病院　地域医療連携センター

奈良県大和高田市礒野北町１番１号
TEL：0745-53-2901（代表）　0745-53-7188（直通）　FAX：0745-52-4428（直通）
https://ym-hp.yamatotakada.nara.jp

院長のご挨拶
salutation

院長 桝田 義英 ますだ よしひで



病院長の桝田でございます。今回は、大和高田市立病院の目指す未来についてお話させていただきます。

当院の未来は、2021年12月より「大和高田市立病院将来のあり方検討委員会」を設置し検討してまいりました。2023年度奈良県地域医療連携課の事業である「医療機能再編支援事業」を活用させていただき、奈良県地域医療構想に沿った医療提供体制の構築が可能か検証してまいりました。その結果2045年までは、人口減少、少子高齢化は確実に進行するものの、医療を必要とする世代はこれからも増え続けるとの結論で、今後の取組みとして、①救急応需3000件目標（診療圏2045年には、約13,000～14,000件程度と推計）②心疾患（2045年まで増加傾向と推計）の治療として、2023年4月より心臓カテーテル検査および治療を開始しています。③2024年度には、外科および泌尿器科領域でより専門的ながん治療を目指し、ロボット手術の導入に向けて検討しております。④脳疾患（市内からほとんどの患者さん（約96%）が流出）の医師の確保が重要と考えています。

主な取組みにつき述べましたが、2045年までの間は、現在の320床を維持し、今後の取り組みを確実に遂行する考えでまいります。

当院は、現在地域医療支援病院を目指し取り組むことで、中和医療圏の地域の医療機関と病病、病診連携の強化を図っております。「2人主治医制」を推進して紹介、逆紹介を活発に行なっていきます。

地域の機能連携を図るために、医療従事者の資質の向上に取り組むために2022年4月より、毎月1回地域の医療従事者を交え研修会を実施、同年4月より、開放病床（整形外科）4床設置また全診療科において、地域予約枠の設定を開始しています。

このように、地域の後方支援が可能な体制が整うことを目指しています。

当院は、2023年10月を持って開院70周年の節目を迎え、新たな心構えで、中和医療圏の中核病院として、そして何より市民の皆様のための病院として、より一層の発展をすべく職員一同で取り組んでまいる所存でございます。

今後とも皆様の温かいご支援、ご協力とともに、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

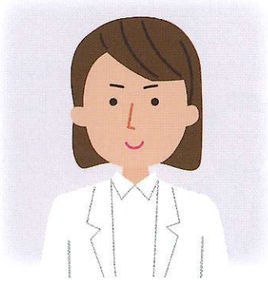
新任医師のご紹介
new doctors

整形外科 尾﨑 裕亮 おざき ゆうすけ

1月から勤務いたします整形外科の尾﨑裕亮と申します。

これまで骨折などの一般外傷疾患や関節リウマチ、様々な関節炎の診療に従事してきました。

内科、麻酔科、放射線科などの様々な先生方と協力しながら当地域の整形外科・関節炎治療が当院で完結し、地域の患者さん、地域の先生方、当院職員の満足度が向上するように努めて参ります。



腎臓内科 増永 真奈 ますなが まな

1月から勤務いたします腎臓内科の増永真奈と申します。

これまで奈良県立医科大学附属病院腎臓内科で幅広く様々な腎臓内科の疾患を診療してきました。

当地域における腎臓治療が当院で完結し、患者様や先生方、職員の方々の満足度が向上するよう務めてまいります。

70周年記念のご報告

70th anniversary ceremony

副院長 向川 智英

～大和高田市立病院開設70周年記念式典～

大和高田市立病院が令和５年10月をもって開院70周年を迎えるにあたり、令和５年10月27日の土曜日に大和高田さざんかホールにおいて記念式典が盛大に開催されました。第一部では、オープニングアクトとしてコーラスグループによる唱歌メドレーが披露され、式典の幕が開きました。

まず冒頭に、桝田義英・大和高田市立病院病院長が挨拶され、昭和28年に厚生省指定モデル病院「大和高田市民病院」として開設され、昭和45年には「大和高田市立病院」に改称し、320床の病院として新築移転し、平成11年には東館、平成27年には南館（放射線治療棟）が竣工され現在に至った経緯を話されました。この間、救急診療体制の充実、従来からの小児医療および周産期医療の継続、奈良県立医科大学からの支援による内科診療体制の強化により専門的な治療や外科系の手術件数が飛躍的に増加していることで、これからも奈良県地域がん診療連携支援病院として充実した治療ができるよう前進していく考えや、さらには開業医の先生が気軽に紹介できる病院として、これまで以上に地域医療に貢献するために地域医療支援病院を目指していくことを表明されました。

桝田義英院長

つぎに、堀内大造・大和高田市長より奈良県中和保健医療圏の中核病院として地域医療を担うなか直面した新型コロナウイルス感染症のパンデミックでは、感染拡大のリスクを最小限に抑えつつ、医療の提供を続けるために医師、看護師をはじめとするスタッフの尽力に敬意が表されました。

堀内大造・大和高田市長

さらに、来賓としてご列席いただいた森本尚順・大和高田市議会議長、筒井昭彦・奈良県医療政策局長、安東範明・奈良県医師会会長、酒本將稔・大和高田市医師会会長からそれぞれご祝辞を賜りました。

森本尚順・大和高田市議会議長
筒井昭彦・奈良県医療政策局長
安東範明・奈良県医師会会長
酒本將稔・大和高田市医師会会長

記念式典のあと、細井裕司・奈良県立医科大学学長による「軟骨伝導による『高齢者が生き生きと活躍できる社会』の実現～「聞こえ」で困らない環境整備と難聴に起因する認知症の予防～」と題する基調講演を賜りました。まず、奈良県立医科大学の近況の紹介、医学の知見を用いて産業創生やまちづくりを図る MBT:Medicine-based Town（医学を基礎とするまちづくり）構想への取り組みについて述べられました。次に、本題である軟骨伝導について詳細に解説いただきました。2004年に細井学長が軟骨伝導を初めて発見され、その仕組みを応用して作られた軟骨伝導イヤホンは従来型イヤホンとは異なり、イヤホンに耳垢がつかず清潔で外耳道炎予防にも有効であること、高齢者が活躍できる社会への環境整備に役立ち、認知症予防にもなること、ひいては新産業の創生や2025年に開催される大阪万博にも貢献できることなどを写真や動画を交え力説されました。

細井裕司・奈良県立医科大学学長

第一部の最後に、岡村隆仁・大和高田市立病院名誉院長よりご祝辞を賜るとともに今後の新病院建替えに向けての期待を述べられました。

第二部では来場された一般市民も交え、音楽療法士である大野綾音様より「音楽療法をご存じですか？～リハビリテーションと心のケア～」と題して、医療における音楽療法についてご講演いただきました。音楽が持つさまざまな特性である生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身障害の回復（リラクゼーション）、機能（心肺機能、口腔機能、発語・発声機能等）の維持改善、生活の質の向上、行動の変容に向けて音楽を意図的計画的に使用する音楽療法のすばらしさを伝えられました。また後半はピアノ奏者のNANAha様との共演で、一般市民の参加者にも体を動かしながら音楽療法を体験していただき、大変楽しく和やかな空気となりました。

最後に、中谷敏也・大和高田市立病院副院長が挨拶され、閉会いたしました。

音楽療法士 大野綾音、ピアノ奏者 NANAha共演による『音楽療法』実演

コロナ後の活動再開

resuming activities after corona

地域医療連携センター 山本 真由
石村 一路

第117回まほろばPEACE 緩和ケア研修会開催報告

「まほろばPEACE緩和ケア研修会」を、2023年12月2日(土)に約4年ぶりに再開いたしました。
「緩和ケア研修会」は、がん診療に携わる医療スタッフを対象に、緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアを提供されることを目的としています。
今年は、院内の職員が多数参加し、主にグループワークを通して、理解を深めました。
本研修会は、奈良県内のがん診療連携病院でも、定期的に開催しておりますので、ご興味ございましたら、ご参加下さい。

緩和ケア研修会の開催にあたって

緩和ケア研修会が開催された背景・研修会の目標等についての講義がありました

コミュニケーションロールプレイ

ロールプレイを通して、がん医療における患者・医師間のコミュニケーションの技法を学びました

全人的苦痛に関する緩和ケア

がんの疼痛事例を通じて、『疼痛の評価』とそれに基づいた適切なマネジメントを学びました

療養場所の選択と地域連携

がん患者の療養場所の選択、地域における医療連携、在宅における緩和ケアの実際について学びました

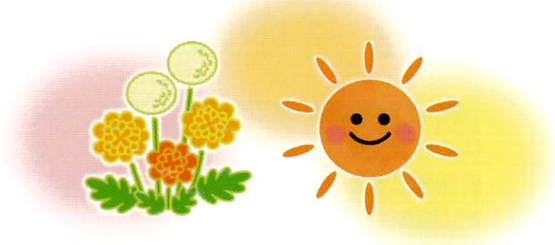
がん患者サロンひだまり開催

コロナの影響でお休みしていた「がん患者サロンひだまり」が、2023年9月より約4年ぶりに再開いたしました。

「がん患者サロン」とは、がん患者さん及びそのご家族などが主体となって、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場のことです。身体的・精神的な悩み、仕事や経済面における悩みを語る等、対話を通してがん患者さんやご家族の皆さんの不安を緩和したり、よりよく過ごすためのきっかけを見つけることやがんに関する情報交換をすることが出来ます。

再開したばかりのため、まだまだ参加人数が少ないですが、これから沢山の患者さんに参加いただけるように周知していきたいと思います。

当院で通院していない患者さんもご利用可能です。がんのことで悩んでおられる患者さんがおられましたら、ご周知の程宜しくお願いいたします。



ピアサポーター※さんが、参加者の相談にのっています

栄養士も参加して、患者さんの疑問にお答えしました

サロン情報

がん患者・家族の皆さんが、それぞれの思いを語り合うことが出来る場です。不安や悩みを共有し合うことで、少しでも気持ちが軽くなるようなサロンを目指し、**2ヶ月に1回の奇数月に開催**しています。

参加無料
(事前申込不要)

対象	**がん患者さん及びそのご家族の方** (入院中の方・また、当院に通院していない方もご参加頂けます)
場所	**1階 患者図書室「こもれび」**
時間	**午後2時～4時**

※ピアサポーターとは、がん体験者の患者さんやご家族(ピア・仲間)の方が、奈良県の実践する「がんピアサポーター養成研修」を修了された方のことです

疼痛管理チームのご紹介

acute pain service

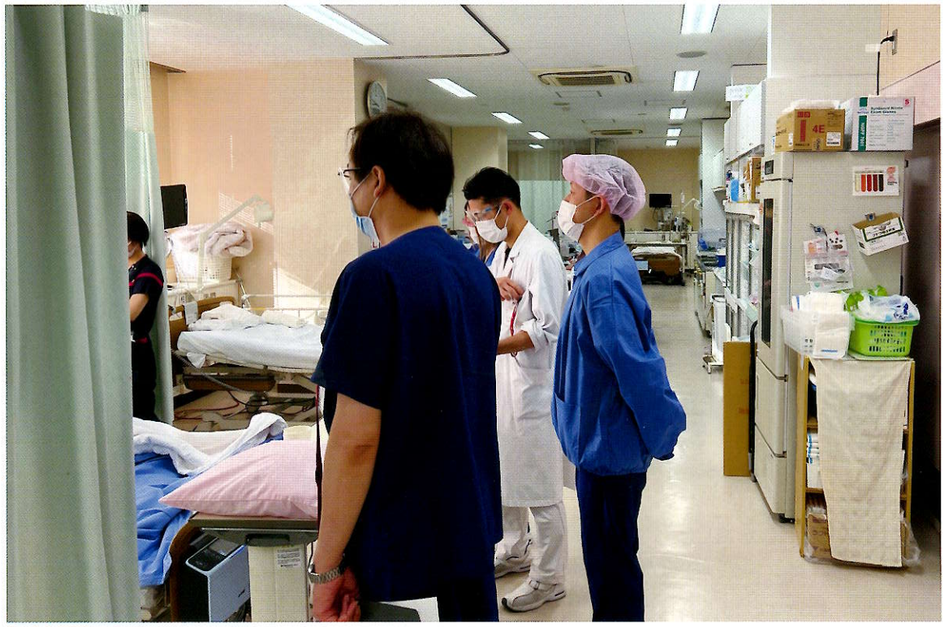
周術期管理センター センター長 岩田 正人

術後疼痛管理チーム（APS（Acute Pain Service））は手術を受けた患者さんの痛みや吐き気などの苦痛を緩和するための専門チームです。麻酔科医師と、「術後の疼痛管理に係る所定の研修」を修了した看護師、薬剤師、臨床工学技士とがチームで回診しています。

近年手術の高度化や患者さんの高齢化などを鑑み、手術が決定してから手術までの術前、手術室での術中、そして手術後の炎症や痛みなどが治まるまでの術後期間を合わせて周術期と呼ぶようになってきました。なかでも日本麻酔科学会は、安全な手術の実施に向けて麻酔科医を中心としたチームによる「周術期管理チームの構想」を2007年から提唱しています。周術期管理チームの役割は、手術予定患者さんの術前評価、入院後の術前・術中管理、病棟での術後鎮痛などを多職種のチームにより円滑な医療を行うことです。

当院でも2023年3月に周術期管理センターを立ち上げ、手術を受けられる全ての患者、特に自己調節鎮痛法による専用の器材を用いたIV-PCA（静脈内自己調節鎮痛法）やPCEA（硬膜外自己調節鎮痛法）などが実施されている患者さんや、継続的に観察が必要な患者さんを対象にAPSによる回診を開始しました。必要ならば鎮痛薬や制吐剤の追加処方も積極的に行っています。

今後も患者さんの術後の安楽と早期回復を目指して主治医や病棟の看護師と協働しながら尽力していきたいと考えています。



内視鏡検査・心臓カテーテル検査

endoscopy, cardiac catheterization

副院長 中谷 敏也

内視鏡（右図）

R4年から消化器内科医の増員と内視鏡機器の充実化に伴い内視鏡の件数は増加しており、特に内視鏡治療面（早期胃癌の内視鏡治療、内視鏡的止血術、胆道結石除去、胆道ドレナージ術）での増加が目立ちます。

心臓カテーテル（下図）

R5年から循環器内科医の増員により心臓カテーテル検査・治療が導入となり、現在は主に予約患者を中心に行っていますが、検査、治療とも順調に件数は増加してきています。

内視鏡	R3	R4	R5
上部内視鏡検査	2,848	3,207	3,438
胃・十二指腸内視鏡検査	2,847	3,200	3,431
小腸内視鏡検査	0	0	3
超音波内視鏡下穿刺吸引生検法	1	7	4
大腸内視鏡検査	897	777	774
上部内視鏡治療	270	306	464
食道狭窄拡張術（拡張用バルーンによるもの）	0	1	5
食道ステント留置術	3	0	3
食道・胃・十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術	15	31	52
食道・胃静脈瘤硬化療法（内視鏡によるもの）	4	0	0
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	7	16	12
内視鏡的胃、十二指腸ステント留置術	1	3	10
内視鏡的胃・十二指腸粘膜切除術	6	5	15
内視鏡的胃内異物摘出術	7	3	10
内視鏡的食道異物摘出術			
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	0	0	1
内視鏡的消化管止血術	49	76	95
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	26	17	24
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ENBD）	25	22	29
超音波内視鏡下瘻孔形成術（腹腔内膿瘍）	0	0	2
内視鏡的胆道結石除去術	9	14	30
内視鏡的胆道拡張術	0	0	2
内視鏡的乳頭切開術	55	43	59
内視鏡的膵・胆道ステント留置術	45	53	113
下部内視鏡治療	420	532	607
内視鏡的大腸ポリープ切除術	385	476	524
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	7	15	24
小腸結腸内視鏡的止血術	8	9	14

心臓カテーテル	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	**R5**
心臓カテーテル法による諸検査（検査）	1	1	2	5	2	6	5	1	5	**28**
経皮的冠動脈形成術（治療）	0	3	0	0	0	2	5	5	3	**18**
経皮的冠動脈ステント留置術（治療）	7	5	5	6	2	0	3	3	3	**34**
合　計	8	9	7	11	4	8	13	9	11	**80**

地域医療連携センターからのお知らせ

regional medical coordination center

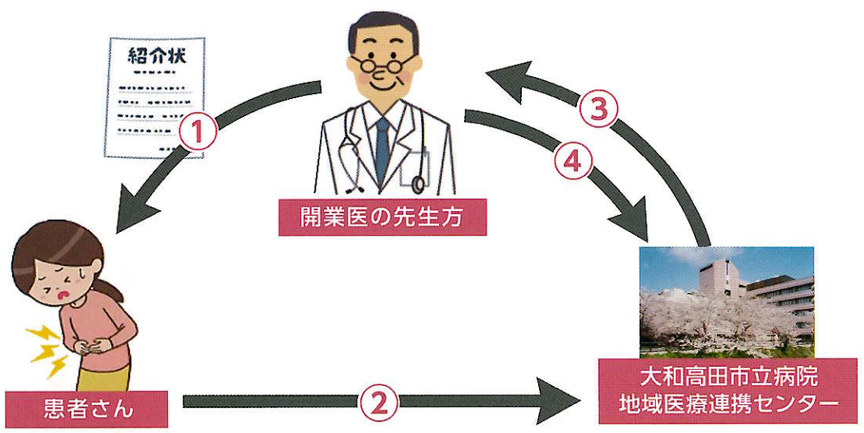
地域医療連携センター長 向川 智英

患者さんから直接電話でご予約できます

令和５年７月より、当院あての紹介状（診療情報提供書）をお持ちの患者さんに限り、電話にて予約をお受けしています。患者さんからの予約を受付ましたら、当院より連絡させていただきますので、事前に紹介状を当院へFAXしていただきますようお願いいたします。

日々多忙な診療の中で先生方からの予約手続きを簡略化するとともに、患者様のスムーズな診療にも繋がると考えております。予約方法等、詳細につきましては当院ホームページをご確認ください。

インターネットサイトはこちら
https://ym-hp.yamatotakada.nara.jp/medical/chiiki/patient.html#006



①紹介状を渡し、予約する「診療科・担当医」の指定の有無を伝える
②患者さんから「大和高田市立病院 地域医療連携センター」へ連絡
③「大和高田市立病院」から開業医の先生方へ予約日を報告
④予約日の３日前までに紹介状をFAXください

診察の優先順位

外来診療においては、優先順位を明確にした運用にしています。
予約や紹介状の持参により診察がスムーズになりますが、予約のない方や紹介状を持参せずに直接来院された方は、優先診察後の受診となり待ち時間が長くなります。これまで以上に地域予約枠をご活用いただけますと幸いです。

（※産科、麻酔科、脳神経外科、皮膚科、透析科、形成外科、呼吸器内科、総合内科は予約枠はありません。予約診療を行っていない診療科は従来通りです。）

優先順位

1. 他院から地域医療連携センターを通して予約された方
2. 当院に通院中で予約されている方
3. 予約はないが他院からの紹介状をお持ちの方

返書管理の取り組み

当院は、日々地域の医療機関の先生方から多数のご紹介をいただいております。紹介状に対する返書がすみやかに行われるよう、返書状況の確認や必要に応じて担当医師への連絡を行っています。これからも安心して紹介いただけるよう取り組んでまいりますので、地域医療連携センターを通じた患者さんの紹介をよろしくお願いします。

ご不明な点がございましたら地域医療連携センターまでお問い合わせください。

大和高田市立病院　地域医療連携センター

TEL:0745-53-7188（直通）　TEL:0745-53-2901（代表）　平日 8:30～16:30

FAX:0745-52-4428（24時間受付可能）

大和高田市立病院
医師専門領域

別紙にてご確認ください。
PDFでも閲覧・ダウンロードできます➡
https://ym-hp.yamatotakada.nara.jp/data/media/yamato_takada/pdf/senmonyoyaku.pdf